

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	都市計画課
職	課長
氏名	二塚 保之

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
<p>人口減少・超高齢化社会の進行に対応した、人を惹きつけるにぎわいのある拠点性の高い地域づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地の郊外への拡大を抑制し、中心市街地の住宅や商業の集積を図り、誰もが歩いて生活できるまちづくりを支援。郊外部では、拠点的な市街地形成を支援。 ・住民の参画を経て、賑わいの拠点となる目抜き通りや広場などの整備を進め、歴史的な街並みの保全などにより市街地の魅力アップを図る。 ・環状道路の整備、公共交通の利用促進、新しい交通システムの導入可能性検討を進め、交通渋滞の緩和や、人と環境に優しい交通体系を構築する。 ・副都心地域では、金沢駅、金沢港、都心部と一体となった賑わいの創出を図る。 ・生活排水処理施設を整備し、生活環境の改善や公共用水域の水質保全を図り、魅力あるまちづくりを支援。 ・下水汚泥などを資源・エネルギーとして積極的に再利用し、省エネルギー・リサイクルのまちづくりを実現する。 	



組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か				
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか				
<p>①人を惹きつけるにぎわいのある拠点性の高いまちづくりの推進。</p> <p>②景観総合条例による美しい景観の保全と創出。</p> <p>③兼六園周辺文化の森の回遊性向上。</p> <p>④人と環境にやさしい都市交通基盤の整備。</p> <p>⑤快適な暮らしと良好な水環境のための生活排水処理施設の整備。</p> <p>⑥汚泥の利活用による省エネルギー・リサイクル社会の実現。</p>					
(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する				
目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
①にぎわいのある地域づくりのためのまちづくり活動団体(※1)数	249 団体	H28 年度	300 団体	H37 年度	石川県長期構想より
②住民が主体となって街並み景観形成のための「まちづくり協定(※2)等」を締結した地区数	152 地区	H28 年度	190 地区	H37 年度	〃
③兼六園周辺文化施設の年間入場者数	約89 万人	H28 年度	約81 万人	H29 年度	県文化振興課における目標設定値
④金沢市街地の渋滞発生区間長	約30 km	H22 年度	約15 km	H37 年度	石川県長期構想より
⑤汚水処理人口普及率	93.6 %	H28 年度	97 %	H37 年度	石川県生活排水処理構想
⑥下水道汚泥有効利用率	53.4 %	H28 年度	73 %	H37 年度	石川県生活排水処理構想

※1にぎわいのある地域づくりに向けた活動を行っているまちづくり団体(NPO、まちづくり協議会など)

※2住民主体で、美しい街並み景観の形成を目的として定めたルール。

29年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
①にぎわいのある魅力的なまちづくりの推進	土地区画整理事業や街なみ景観魅力アップ整備事業、まちづくりと一体となった街路整備事業等を活用し魅力ある市街地の整備を進める。
②良好な景観形成の推進	いしかわ景観総合条例に基づき良好な景観形成施策を推進する。
③兼六園周辺文化の森の回遊性向上	観光シーズンに特に交通混雑が生じており歩道も狭小である兼六園下交差点において、交差点の抜本的改良と老朽化が進んでいる兼六駐車場の建て替えを一体的に整備する。
④都市交通基盤の整備・公共交通への利用転換	環状・放射道路の整備や、渋滞ポイントの解消、パークアンドライドなどの公共交通の利用促進により交通混雑の緩和、環境負荷の低減を進める。
⑤低コストの生活排水処理施設整備の推進	郊外集落や中山間地域など整備が進まない地域においては、地域の状況に応じた低コストの生活排水処理施設整備を進める。
⑥汚泥の資源及びエネルギーとしての再生利用	小規模下水処理場向けに開発したメタン発酵技術の普及を促進することで、汚泥の利活用を進める。